

# 会員のば

## 旭川市医師会新春懇親会 「年男・年女 口上」

旭川市医師会  
大雪病院

豊田 馨

吾輩は、北大恵迪寮の羊の妖怪である。  
今年は羊年であるので、応援にかけつけた。  
諸君、新春おめでとう！

羊は弱い者の筆頭にあげられるが、しかし群れると強いのだ。

かの有名な都ぞ弥生の2番に、羊群声なく牧舎に帰るとあるが、これは明治時代の話で今はそんなことではダメだ。平成の今こそ羊群は声を出し、道医、日医に入らなければならない。分かったか！

最近、日医の力が衰えてきている。それは会員減少である。

かつては、参議院議員選挙で日医連の候補は100万票取り上位当選したが、今は40万票前後でやっと当選か落選を繰り返している。

現在では会員の少ない歯科医師会の候補が上位当選している。

日医連の次の候補は38歳小児科の女医さんが推薦されている。

アベノミクスとTPP参加でこのままでは国民皆保険の崩壊になりかねない。

群れを嫌い、権力を嫌い、束縛を嫌う、と良いカッコつけるのはドクターX一人でよくて、迷える子羊とともに日医に参加して国民皆保険を守れ。崩壊したら、君たちは失業するのだぞ。

さて、現実に戻ろう。

羊年のレジェンド小野道延さんは年男を迎えることもなく、1年前に神の生贄となり天国へ召された。

今は最高年は昭和6年組である。8名いるが大半は元気がない。

その中で一番元気の良い羊がいる。最近では医師会のゴルフで優勝し、ホールインワンも達成。台場の月例でも優勝している。

吾輩は、軽い脳梗塞で長いと滑舌が悪くなるので、元気のある羊と交代する。

押忍、押一忍

さて、古代の天文学、暦学、哲学から作られた東洋占星術によると、世界は2010年より「未」の時代を迎えていると言われている。この説は12年ごとに時代は変化するという理論に基づいており、現在は「未」に順番が回ってきている。144年振りに訪れた「未の時代」は2021年まで続き、未年の良いところが脚光を浴び、人生で二度とない開運のチャンスである。未年は周囲の人を幸せにする不思議な運勢がある。未年の人は超運の人と言われており、強運と違い宝くじが当たるような派手な大当たりは無い、超運はなかなか見えにくい運であるが、例えば友達との交流により有意義な人脈ができ、互いに充実した人生を送ることができる。未年を友とした人は、みんな幸せになると言われている。

それでは、なぜ未年は運を呼び寄せるのでしょうか？ それはひとえに多くの人が寄ってくるからである。人が集まることで人を超えた運が活発に機能する。

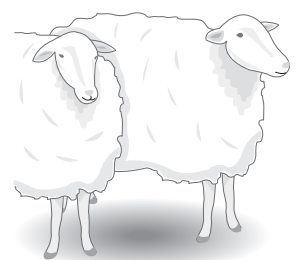
集まってくる第一の理由は、未年生まれの第一印象が良い、情緒が安定し表面的に穏やかで親しみやすい、嫌みが無く話し掛けやすい、話をじっくり聞いてくれる、仲間を大切に、裏切らない、表面の柔らかさとは裏腹に、内面は意外に頑固さを秘めており、じっくり構えて掛かる仕事に向き、緻密な思考力を要する仕事があれば責任をもって成し遂げる力がある。

市長さんは、未年を秘書に登用すれば、市政は充実し、発展するでしょう。代議士をはじめとする、政治家は未年を選挙対策委員長に採用すれば、間違いなく当選するでしょう。

新年早々、中東地域、ヨーロッパでは大変な事件が起きているが、今年は未年である。未の時代にふさわしく、今後穏やかに納まることを切に願い、またご参会の皆さんのさらなるご健勝を祈り、口上とする。

ご清聴有難うございました。

平成27年2月3日  
旭川市医師会 未年の会  
豊田 馨  
佐藤昌巳



## インドア・クライミング

札幌市医師会

### 黒川 輝世

医師の仕事を辞めて10年以上経ち、名ばかりの道医師会員です。

死ぬ間際まで元気で自立していたい。それには身体能力を維持しなければと、週2回、インドアのウォールを登っています。

ジムで器械を使い、黙々と筋トレをやったこともありました。暗くて楽しくない。そのころ登山の延長で岩登りをやり、雨天のときは岩に行けないので、インドアのウォールでクライミングを覚えた次第です。

必ず二人で組んでやります（クライマーとビレイヤー：ロープを確保してくれる人）。友人と組んでやれば楽しいし、費用もかからないのですが、これを定期的にやるとなるとお互いの都合が合わなかったり、ロープパートナーは登る力が同じくらいで、体重も同じくらいでないともまずいのです。結局、施設のインストラクターのレッスンを受ける形で続いています。この方が確実に上手に登れるようになります。このほかに、ボルダリングといってロープを使わないで低いところに登るものがありますが、こちらは瞬発力を多く必要とし、若者向きです。

たくさんのホールドが壁に付いていて、色の違い、テープを貼ったりして、同じ色のホールド、テープで指示されたホールドのみ使って登り、この配置、ホールドの形、壁の傾斜により、難易度が変わります。易しいのから始め、少しずつ難しいものに挑戦し、上まで登れると達成感があり、登れなかった部分を体の動かし方を工夫して登れるようになると嬉しく、面白いのです。人により、身長、体の柔らかさ、筋力、バランス等が異なり、自分の体に合った楽な登り方を見付けます。頭も使います。1時間半の間に難易取り混ぜ6本ぐらい登ります。若い人はもっとたくさん登りますが、登る間の休憩時に楽しくおしゃべりをして、短い時間で上肢と下肢の筋トレができ、体幹の筋力も付き、ウェストが細くなりました。登るときはほかのことなど考えていられません。ストレス解消にもなります。

## 肉とネコ

北見医師会  
北見赤十字病院

### 高橋 一朗

少し不吉な予感がして、封筒を開けてみて、びっくりしました。この「会員のひろば」に何か書いてみては、とのお話でした。そんなの無理です。私は締め切りが守れないダメ人間で、関係の方々に非常に迷惑をかけ、散々ひんしゅくを買い、信用を失い、友人は減り、知人からも避けられ、まあそれはそれで自業自得である、と考えております。それに私は趣味もないし、医療情勢にも疎いし、皮膚科学、医学の発展に貢献どころか足を引っ張る感じで、このままひっそりと、年老いた脱毛症のネコを膝に乗せながら、さすがに診察はしないけど、なるべくご迷惑をおかけしないように静かに過ごしたいと考えているのです。

そもそも私は会員ですが、とメールの返事を打とうと思ったのですけれど「内容は自由です！」との執筆要項に少し引っかかって、えっ？自由？本当に？？

それなら昨日スーパーで買ってきた300円引きの特売牛肉が傷んでいて、電話したらすぐに上等の霜降り和牛を家まで持ってきてくれて、「家族団らんのすき焼きが…」などとチクチク言おうと思っていたのに、「このお肉でよろしいでしょうか？」と霜降りを見せられたとたんに「あらあら、遅い時間にわざわざすみませんねえ。いつも利用していますよ。ポイントもためているんですよ。また買い物に行きますね。はははご苦労様、お気をつけて」…なんて反射的に対応してしまって、このスーパーのスムーズなお客様対応を日常診療の参考にできないか考えていますとか、そんな本当にくだらない話とか、あるいはこの膝の上にいるネコの脱毛は果たして感染症か、それとももっと悪い病気か？毛は培養してみたけど何も発育しないし、何も発育しないからってそんなにキレイなわけではないし、でもいつもペロペロなめているからキレイだってネコ好きな人は言うし、そんなものかなって納得しそうになったけど、よく思い出したら、咬まれたときちゃんとパスツレラ感染症にかかったから、やっぱりそんなキレイなものじゃないに決まってる、とかこんなしょうもない話でも良いのか？

まさかね、なんて思いながら、執筆要項をさらに見ると、関連する写真などを掲載しても良いなどと書いてあって、関連するのは肉とネコだけど、でも肉は食べてしまったし、仕方がないからまあネコの臨床写真を、と思ったのですけど、さすがにくだら過ぎるので、このあたりで失礼させていただきます。

## 雑 草

札幌市医師会  
エルムの杜内科クリニック

澁谷 由江

今年はいつもの年より雪の量がかなり少ないようだ。窓から見えるわが家の小さい庭でも、いつもの年の半分ほどしか積もっていない。今年の春の訪れはもうすぐ…しかし、喜んでみられない。それは私にとって雑草との格闘、すなわち「草取り」と「花粉症」の始まりを意味するからだ。

きれい好きなお隣りさんの庭があまりにも手入れが行き届いているため、わが家の雑草は際立つ。一度は「お宅のタンポポ見事です」とイエローカードを出された。さあ春とともに、ツナギに帽子、ゴーグルにマスク。アレグラ飲んでレッツゴー。

彼らの繁茂はすさまじい。雑草のように強く生きるというが、よくもまあ踏まれても抜かれても、実にしぶとく生き抜く。強敵の面々の名前を知ろうと思ひ立ち、調べたことがあった。

繁縷、蒲公英、豚草、蓬、大葉子、杉菜、雀の鉄砲、雀の帷子、鴨茅、女日芝、白詰草、狗尾草、犬蓼、露草、振花、浜菅、野稗、勿忘草などなど。漢字で書くと古風で味わい深い、ほとんどがアレルギーンとして有名な植物である。

診察室で、あなたのアレルギーンはこういった植物ですよと告げても、イヌ、ネコのようにすんなりと受け入れてもらえない。スズメノテッポウだのブタクサだの、興味のない人にとっては“雑草”のひとくりである。一つずつ写真を見せると「ああ、あれか」。いきおいなじみ深いものになる。八百万の神々のごとく、彼らは人の生活のいたるところでひっそりと巧妙に生活している。鼻炎、結膜炎、呼吸器症状、口腔アレルギーン症状。さまざまな症状が出る可能性を患者さんに説明すると、どうしたらよいでしょうと必ず聞かれる。これらの雑草に近寄らないようにと言いつつ、わが庭を思い出す。近寄らないで生活するなんてとても無理。彼らは厳しい環境の中で一生を終えるが、その逆境を受け入れ順応し、生きる術を身につけた猛者である。どこにでもいて、抜群の適応力とたくましさを持って生き続ける。

しかし、どうやら私はこのやっかいな雑草に惚れてしまったようだ。昨年、懲りもせず「継子の尻拭い」と「木綿蔓」という新しい雑草の種を植えてしまった。どんな花を咲かせるか、お隣さんのイエローカードは出ないか、アレルギーンを起こさないか。ワクワク半分、ドキドキ半分の春を迎える。ハクション…。

## 虫との共生

札幌市医師会  
札幌清田病院

後藤 義朗

毎年啓蟄の日が過ぎると体がむずむずする。虫と一緒に。一昨年までは田舎暮らし、朝の日課が畑作業で、虫が身近だった。ハウス内の土を起こすと、地中で眠っていたはずの小さな虫が蠢く。鳴く虫は夏から秋が活動の時期だが、食害の虫は春先なのに元気だ。日中は自家菜園で虫とバトルしたが、夏の蝉、秋の夜長のバッタやコオロギが協演するサウンドスケープは癒しだった。

虫とて生きるために必死だ。農業の歴史は害虫との戦いでもある。数々の農薬が開発されたが、人間にとっては恩恵ばかりではない。農薬フリーなら商品価値は高まるが、防虫に手間がかかり過ぎる。自家栽培でも虫食い野菜は敬遠される。そこで、虫を寄せ付けないで「環境に優しい」という吊り下げタイプの防虫剤をハウスでかけてみた。だが、虫は一向に減らない。注意書には、虫眼鏡が必要なほど小さな字で「対象は2種類のみ」と書いてある。確かに表示はあったが、万能と思わせる商品名が問題だ。虫の種類は多く、すべての虫に効く薬はない。やみくもに使えば環境に負担だ。

一方、ワラジムシ、蟻、カメムシなどはどこからでも侵入する。人間の決めた屋内外の仕切りは完全無視。ある時、オニクモとの間で玄関ポーチの領有権争いとなった。ポーチのガラス窓には、羽虫や蜂がトラップされる。外に出ようと何度もガラスに体当たりし、もがいている姿はわが身を見るようで切ない。クモには格好の餌場でも、ここの主は自分だと叫んだが通じない。他方、ビニールハウスの入り口には別の黒いクモが陣取り、侵入する害虫を補網している。結果的にはハウスをセコム(?)してくれている。下手な殺虫剤よりずっと効果的だ。この戦略的互恵関係は一つの「共生」の形だ。感謝の意を込め、網を避けて頭を低くし出入りする。このように、共生やバトルの判断は人間本位なのだ。

突然都会へ移動することになり、畑仕事が消えた。虫も鳥も来ない代わりに、形が不揃いでも新鮮な野菜はない。熟したイチゴをワラジムシに先を越され苛立つこともなく、クモとの争いも過去の話となった。

だが、都会で別の「虫とのバトル」に遭遇した。VWは英語の俗語でカブトムシ。つまり、ムシがあふれる朝の移動が戦いだ。(ある議員は常在戦場といっているが) 憧れの「シティライフ」のはずが、眼、肩、腰が重くなり負担は畑仕事以上だ。都会に出た

田舎者を例えると、頭をもたげた尺取虫が、着地点を探して一瞬戸惑うという姿を想像した。だが、実際の尺取虫は迷わない。虫には生きるために十分な能力を備えていることは、丸山宗利著『昆虫はすごい』(光文社新書2014)を読むまでもない。虫の適応力は抜群だ。殺虫剤にも対応するスーパー種になって生き残りを図るものもいる。

さて、人体には別種の虫が共存する。それはダニや寄生虫ではない。一つは「腹の虫」。これが鳴かない日はない。また、宿主の感情を暴走させる居所不定の「虫」もいる。子どもには「疳の虫」。『変身』(カフカ著)の主人公にならなくても、「点取り虫」「本の虫」「金食い虫」等になるのは簡単だ。もっと怖いのは「獅子身中の虫」だろう。これは宿主をも滅ぼす虫だが、癌細胞やウイルス等がある。自己保全のため宿主との共存が不可欠なのに、異常増殖して宿主を蝕ばみ、「虫の知らせ」をもたらす。つまり、「虫」の定義は人間にとり不都合なもの、悪いものを「虫」に押し付けているという虫の良い話なのだ(「益虫」といい、人間に有用なものとの区別はあるが)。

昨秋、NHKの「クローズアップ現代」が取り上げたのが、東京都心に出没しデング熱を媒介したヒトスジシマカだ。また、殺虫剤に耐性となったスーパーナンキン虫や外来種の毒グモ、セアカゴケグモの発生も報じた。最近では後者が関東一円で生息地を拡大したらしい(朝日新聞2014年10月15日)。彼らは自己防衛で毒を使うのだが、生息域が拡大すると接触する危険性も高まる。

一方で、虫との共生の重要性を再確認させた事例がミツバチの大量死だ。2013年9月放送の「クローズアップ現代」によると、2007年時点で世界の25%のミツバチが消えたという。原因として、異常気象、ダニの発生、ストレスなどが想定されるのみ。EUはある農薬を禁止した。ミツバチは大部分の作物の受粉を担うから、その存在は極めて重要だ。人間の食料確保のため、ミツバチの繁殖は最優先課題だ。ミツバチにとっては集めた蜜の一部を人間に取られてしまうので、完全共生とはいえない。一方、かつて日本の殖産興業を支えたのは養蚕で、富岡製糸場が世界遺産に登録されたのも蚕のおかげといってもよい。ただし、飼育中の環境は与えられても作った繭は人間に取られる。さらに、蚕は貴重な蛋白源として宇宙食の可能性も検討されているから「泣きっ面に蜂」状態だ。

積極的共生を目指すのが、食欲不振で受診したIさん。クマ出没の影響で15km先の畑に行けず、夜更かしするようになり体調を崩した。この菜園は、蝶の育成用に購入した土地で、日本国蝶のオオムラサキの食樹・エノキを育てている。以前は蝶採取をしていたが、準絶滅危惧種になったのを憂いて、現在は卵から蛹に育て、成蝶にして自然に戻しているという。「共生」よりむしろ「協生」という表現が適切かな。

虫との「共生」を模索する前に、自然環境の破壊が心配だ。虫とのバランスが乱れたのも、地球温暖化で異常気象による。元はと言えば人間が蒔いた種なのだから、虫のためにも環境整備が急務だ。

虫の目からみると、人間社会のバトルは理解し難い。食べ物の争いではなく、主義主張や立場の違いで争う。だからこそ、昨年のノーベル平和賞をマララさんやサティヤルティ氏が受賞したことを素直に喜び合い、お互いに平和的に共存したい。そして願いは人間と虫も共生できる地球環境を取り戻したい。



## 宮島の鹿

札幌市医師会  
札幌第一病院

### 嵐 方之

数年前に実家の掃除をしていた際、わが家に伝わる古い資料や写真を調べる機会があった。その中に屯田兵となった同郷の曾祖父に嫁いだ曾祖母の故郷での幼少時の写真があった。他の写真とともに大正11年に広島から持ち帰ったとの裏書があった。その中に広島県宮島の厳島神社での親戚一同の記念写真があった。曾祖母はまだ2～3歳で、母親（私の高祖母にあたる）の膝に抱かれていた。曾祖母は戸籍では明治10年生まれとされているが、これは届け出の遅れで、実際は明治8年であったという。いずれにせよ明治10年ごろにはすでに庶民にも晴れの日には記念写真を撮る習慣があったことに驚いた。小学校高学年に相当する年齢らしい男の子たちはすでに着物、袴に学生帽をかぶっている。写真の台紙には「安芸国厳島町厳島写真館 Itsukushima Shashinkan」と印刷されていた。

時代は下って、曾祖父と曾祖母が同じく厳島神社で撮った写真があった。裏書には昭和元年と記載があった。昭和元年は12月25日から7日間しかないから、冬のいでたちで写ってはいるものの、本当にこの期間であったのかどうかは分からない。この写真はバックに千畳閣、五重塔が写っており、先に述べた写真と全く同じ場所で撮られている。こちらの写真には与えられた餌を食べている鹿が3頭一緒に写っていた。

その後、私も機会があって宮島を訪れた。そのときに、これらの写真を撮った場所が、海に向かって神社の左奥の砂浜であることが分かった。比べてみると、150年弱の時を経て社殿を含めて風景が昔と変わらぬままであった。また宮島で放し飼いをされている鹿は、奈良公園とは違って群を成すよりは個別に散歩しており、その分だけ人の近くにいる感じがした。そのためか、街で私に親しく近寄ってきた鹿に何か声を掛けられたような気がした。この鹿は曾祖父母の写真に写っている鹿たちの子孫であり、子孫同士がここで再び出会ったのかと思うと感慨深いものがあった。

## 受験を通して医者进行

札幌市医師会  
メディカルプラザ札幌健診クリニック

### 永井りつ子

年明け早々に、わが家の一大イベントである子どもたちの中学受験がありました。本当によく頑張ったと思います。塾のプリントを見ても、中学どころか高校レベルの問題もあり、その難易度の高さには驚いたものです。

私が子どものころは、周囲には勉強するという習慣があまりなく、また問題もそれほど難しくなかったため、少しの努力で成績が上がった覚えがあります。今はそれが通用せず、人並みに頑張っただけでは駄目だということを知りました。

入試日が近接した何校かを受験したので、その期間は子どもたち以上に私の方が緊張していました。

初日と本命校の前日は眠れず、いろいろなことを考えていました。寝坊しないように目覚まし時計を2つセットし、それらが鳴る前には起きてお弁当を作り、カーナビの故障に備えて道路マップを携え、念のためのタクシー代金も財布に入れ、普段以上の安全運転で暗いうちから出発しました。1つの日程が終わると私の方がぐったりし、次の準備をする気力も無くなったものでした。

最後に受けた学校が一番厳しく、2日間におよぶ筆記試験がありました。当日は校門から先には受験生しか入れず、親は道向かいにある体育館で待機という状態でした。校門に向かう小さな道では、たくさんの保護者や学習塾関係者が、それぞれの塾ごとに長い花道を作り、生徒たちを送り出していました。自信満々でいる子や青ざめている子、今にも泣き出しそうな子もいました。終わりがいいような行列で、見ている私は圧倒されるばかりでした。私の子どもたちはその集団から外れた少数派で、ただの力試しで受けたのですが、それでもさすがに緊張しているようでした。子どもの世界とはいえ、本気で頑張り闘ってきたこの受験生たちを見ていると、どの子も受かってほしいと思うと同時に、ここを突破する壁の厚さを実感しました。それでもまたどこかで勝負できたらと思いながら眺めていました。

たかが中学受験とも思えますが、合格するにはまず本人のやる気と根気、そして我慢強さが必要です。それらを持ち合わせている子が大学では医学部にも入り、医者になっていく。学問を通して心身ともに鍛えられているはずなのに、本当に時流以上に問題を起こしやすくなっているのだろうか。なぜだろう。親として、医者の一入として、この受験に挑む頼もしい小学生たちを見ながら、いろいろ考えてしまいました。

# 「わたし生きていていいの？」 ～11歳の女の子の涙

札幌市医師会  
クラーク病院

## 守内 順子

11歳の女の子が「わたし生きていていいの？」と言って号泣した。

この少女は9歳の時にネグレクトで児童相談所に保護され、施設で養育を受けている。保護の2年後にカウンセラーに性被害を打ち明けた。なんと保護される9歳までに、家族を含めた複数の加害者からの性暴力被害を受けていたという！ 精神科医の診察を受けた少女はひと晩中号泣していた。「わたし生きていていいの？」と言いながら…。こんなに小さな子が心身を深く傷つけられ、自己肯定感を打ち砕かれてしまっているとは！！

これは『さくらこ』がかかわった多くのケースの中の1例です。虐待被害児は性的な虐待を受けていても、すぐには開示しないことが知られています。

「北海道女性医師の会」は子どもの健やかな成長、未成年・女性への健康支援を目的に『ゆいネット北海道』を組織し、これまで7年間、医療・行政・警察・弁護士・教育機関の方々と一緒に活動してきました。この『ゆいネット北海道』は2012年9月にNPO法人として認可され、北海道と札幌市からの委託を受けて『性暴力被害者支援センター SACRACH（さくらこ）』の運営を始めました。

現在、『さくらこ』は、性暴力に遭った女性や子どもの電話相談を行っています。今までに600件以上の電話相談を受けており、重大で深刻なケース、緊急対策が必要とするケースも増えています。そこで、昨年春に医師、弁護士、教員、社会福祉士などによる運営委員会を発足させました。必要な事例に対しては数名がチームを作り、情報の安全な共有と検討・迅速な対応を行っております。定期的な運営会議の他に、行政、司法、警察、児童相談所などとの話し合いの場も設けています。超多忙な方々が無報酬にもかかわらず、何とか被害者の力になりたいという思いで集まり、熱心に議論されている姿に、いつも感銘を受けています。特に女性の弁護士の方たちが『さくらネット』という組織を作って『さくらこ』を強力にサポートして下さり、非常に心強く感じています。

性暴力被害者の診察は被害直後の対応が非常に重要で、身体の傷のみならず、踏みにじられた尊厳を思いながらの診察や治療、その後の介入が重要です。多職種が力を合わせて被害者が自尊感情や生きる気力を無くさないように、さまざまな形でバックアップしていくことが必要です。

被害直後の治療や介入が遅れ、生涯にわたって苦しむ女性があります。現に『さくらこ』の電話相談の多くは遠い過去の被害です。10代に被害に遭われた60代の方が、不眠や体の痛みを訴え相談してきます。これは早期治療がとても大切だということをよく表しています。性暴力・虐待は鑑別すべき小児期の疾患で見逃しが予後に直結します。診療の場で虐待を疑うのは診断行為であり、通告するのは治療（支援）行為であるとも言われています。

毎日のように子どもの虐待の報道がされる今、子どもを守るために立ち上がる時のような気がします。



## 愛猫が病気になった

札幌市医師会  
伊東皮フ科クリニック

### 伊東 佳子

わが家には6歳になる「もも」というアメショがいる。その溺愛する猫が、昨年夏突然病気になった。

あれは、夏休みに予定していたバリ島旅行の5日前、朝まで普通に食事をし、元気だった。夜帰宅して、いつものように大好物の猫缶をあげたのだが全く食べない。いや、食べたいのだが食べられないという表情をする。初めてのことなので、びっくりしてしまった。口内炎はないか、どこか痛がっているところはないか、便尿の性状は？ 思い当たる異常は見つからない。呼吸も正常、発熱もないようだ。

翌日朝一番で、かかりつけの動物病院へ連れていき、できる限りの検査をお願いし、預けて職場へ向かった。気をもみながらなんとか仕事を終え、帰りに動物病院へ寄り、担当の獣医さんから検査結果が伝えられた。

X-P、エコー検査より、肥大型心筋症、多発性嚢胞腎、片腎委縮。血液尿検査より、膀胱炎からくる腎盂腎炎、腎機能低下が疑われ、思いもしない悪い結果だった。あまり長生きできないでしょうとも言われ、大ショックだった。

「今すぐにでも死んでしまうのではないか」。夫と相談し、旅行はキャンセルして夏休みは猫の看病に徹することにした。幸い食欲は2～3日で少し食べてくれるようになったのだが、最も困ったことは投薬である。いつも好んで食べる猫缶に混ぜて与えると、食べてくれないどころか、警戒して次はその猫缶単身でも食べなくなる。ドライフードを食べるま

で回復していない時期は、本当に困った。ネットで、粉薬を水に溶かしてシリンジで投与する方法を勉強し、試してみた。心を鬼にして、普段抱っこを嫌がる猫を仰向けに膝の上に抱え、口の横からシリンジを咥えさせ無理やり飲ませてみるものの、1～2週で薬を用意する気配を察してローテーブルの下に隠れ出てこなくなった。

いつもお世話になっているペットシッターさんに相談すると「猫缶で食べさせるほうがいいですよ」と言われ、薬を混ぜても無理なく食べてくれる猫缶を探すことにした。職場近くのスーパーのキャットフード売り場の前で、疲れた顔して立っている私の姿を見かけた、わが医院にかかっている患者さんが、「先生どうしたの？ 猫飼っているのかい」と声を掛けてくれた。藁をもすがる思いで事情を説明すると、なんと、猫10匹も飼っているという患者さんがある猫缶を手に取り、「先生、これでやってごらん。よく混ぜるんだよ」と教えてくれた。

あー神様、仏様、患者様。家に帰ってやってみると、美味しそうに食べてくれた。その後、ムース、ペースト、テリーヌ状の猫缶なら薬を混ぜても食べてくれることが判明した。こんなこと、獣医さんは教えてくれなかった。彼はシリンジで投薬したほうがいいと力説していたが、実際には無理である。

このことは、乳幼児に薬を飲ませる時にも共通して言えることなのであろう。実際に薬を飲ませたことがない私や薬剤師が、飲んでくれないと困った患者に適切にアドバイスできていたか、と反省させられた。

この原稿を書いている今現在も投薬、定期受診は続いているが、腎機能は正常化して問題なく維持している。薬の袋を見せると、すりーっと甘えるようになった。ペットである以上、いつか先に旅立たれる日が来ることは百も承知であるが、それに耐えられる自信がない。というか、考えたくもないのだ。



## UNESCOと私

旭川市医師会  
はやし内科胃腸科小児科医院

### 林 朋子

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」

これは、UNESCO (United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization、以下「ユネスコ」という) 憲章前文の一部です。ユネスコは教育、科学および文化の協力と交流を通じた国際平和と人類の福祉の推進を目的とした国際連合の専門機関です。私は20年ほど前から旭川ユネスコ協会でユネスコ活動をしていますが、ユネスコの理念が今ほど大切な時代はないように思います。

ユネスコは世界遺産を認定し、保護を支援し、後世に遺すことで国際平和に貢献しようと考えます。北海道には2005年に世界遺産(自然遺産)に認定された知床、アイヌ語でシリエトク(地の果て)があります。国際的希少種であるオオワシやシマフクロウ、ヒグマ、シレットコスミシなど、流氷がもたらす動植物系の複雑な関係性により特異な生態系が作られています。2013年12月には日本人の伝統的な食文化である「和食」がユネスコ無形文化遺産に認定されました。私たちの身近なところに残すべき有形、無形の遺産が数多くあります。

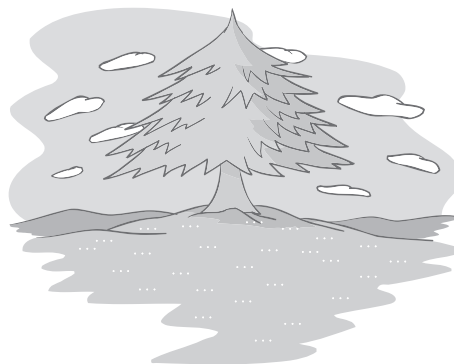
国連機関であるユネスコは、日本国内に特別な組織を持たず、文部科学省内に国内委員会がありますが直属の機関ではありません。国内委員会はユネスコ活動(ユネスコの目的を実現するために行う活動)に関する助言、企画、連絡および調査や、わが国におけるユネスコ活動の基本方針の策定、国内ユネスコ活動関係機関および団体との情報交換をします。

ユネスコの理念に則って地域で活動するのは、経済的に独立した民間組織です。日本のユネスコ活動の歴史は古く、日本がユネスコに加盟する前に、世界初の民間ユネスコ運動が昭和22年に仙台ユネスコ協会により始まりました。民間人が第二次世界大戦後の混乱期に、「武器を棄て、文化の力で平和国家を建設しよう」という切なる思いで、世界規模の交流や相互理解のために地域でこつこつと個人の心の中に平和の基礎を作ろうとしたのです。現在、日本ユネスコ協会連盟には約270の協会が所属しています。

旭川ユネスコ協会は、大きく4つの事業をしています。まず、カンボジアのシェリムアップ州に2つの寺子屋を建設しました。カンボジアでは、ポルポト独裁政権が1975年からの4年間で人口の四分の一を虐殺し、教育システムが崩壊しました。日本ユネ

スコ協会連盟やシェリムアップ州青年課と連携をとり、貧困地域に暮らす人々を対象に識字教育や収入向上支援を行うとともに、人材教育に力を入れるため、地域の人々により運営される小さい規模の学舎を作り、運営を支援しています。次に、営林署の協力のもとで大雪山系にミズナラの植樹をしています。小学生にミズナラの苗を3ヵ月ほど自宅で育ててもらい、秋にその苗を植樹しにいきます。北海道はミズナラの代表的な産地です。さらに、夏にはユネスコ活動を広く市民の皆さんに伝える広報活動を行います。街頭に立つことに慣れず、私が苦手なイベントです。保育園児が協力してくれて助かっています。最後に、20年以上続く、小中学生による「ユネスコ作文コンクール」と「外国人日本語主張発表会」。子どもたちが平和について考え、留学生が日本に住んで感じた文化の違いを話し、子どもたちには留学生から直接話を聞くよい機会となっています。全事業に参加できなくても、会員としていささかなりとも役に立っていることが私の喜びです。

お忙しい北海道医師会会員の皆様には、この機会にユネスコ活動を知っていただき、日本ユネスコ協会連盟を通じてご支援賜れば幸いです。





## 「21世紀の資本」(トマ・ピケティ著)の 解説書「日本人のためのピケティ入門」を読んで

札幌市医師会  
手稲溪仁会病院

### 田中 繁道

『21世紀の資本』という英語訳本がアマゾン・ドットコムでベストセラー第1位になり、話題になっている。著者のトマ・ピケティ教授が来日したという報道もあったので書店に出向いたが、専門書でしかも分厚いので、読むのは無理と判断した。積み上げている『21世紀の資本』の隣に『日本人のためのピケティ入門 60分でわかる「21世紀の資本」のポイント』(池田信夫著)があった。この手の「〇〇分で××が理解できる」といった本を過去にも読んでみたが、結局は理解もできず、途中で放り出した経験を一度ならず味わってきた。

しかし、今回はとにかく、『日本人のためのピケティ入門』を何とか読み上げたので、いくつか印象に残った点を整理してみた。もとより経済には全く疎い人間なので書評をするつもりは一切ない。

ピケティ氏は、マサチューセッツ工科大学の准教授を務めた経歴を持ち、現在パリ経済学院の経済学の教授で、まだ43歳ながら世界的な業績を上げている。

今までの経済学では「資本の生産性が労働を上回れば投資が増えて資本収益率が下がり、労働生産性に近づく」あるいは「資本蓄積が増えると資本収益率が下がって収穫逓減が起こり、どこかで蓄積は止まり、かつ資本設備は消耗するのでいつまでも増え続けることはない」とされてきた。しかし、「21世紀の資本」では19世紀以降の各国の税務資料などを収集し、それをもとにして、ヨーロッパの主要国や米国のマクロ経済データをいろいろな手法で比較し、資本主義の根本的矛盾と呼ばれる不等式、 $r > g$  ( $r$ : 株式や債券や不動産などすべての資産の収益率、 $g$ : 国民所得の成長率)を導きだした。つまり「資本家の利益が一般国民の所得の伸びより大きく増えるので格差が拡大する」という。もちろん、収集したのは古い資料なので、その推計手法やデータの信頼性について専門家からの批判もあるが、決定的な誤りは見つかっていないようだ。

では何が格差の原因か。一つ重要なことは教育である。労働生産性の高い労働者が高い賃金をもらうので、専門的な労働者の供給は教育に依存する。米国の例を引き、下位50%の低所得層の子どもの大学進学率は10~20%にとどまる一方、上位4分の1の階層の子どもの進学率は80%になっているという。つまり、親の所得で子どもの学歴をほぼ予測できるようになった。日本でも同じような指摘があること

は周知の通りである。

もう一点、資産の発生源は、所得から貯蓄される部分と相続遺産であるという。そして、資産を多く持つ人は多くのリスクを取ることができるので、高いリターンを得る。これが資産の不平等をさらに拡大するメカニズムだとする。政治的にも選挙資金などの金銭的格差から、政治的権力が一定の集団に集中し不平等が生じるようになる。民主主義の力で不平等を是正するのが困難になり、民主主義の基盤も揺らぐ事態になるという。

では、いかに格差を防ぐか。教育への投資が賃金格差を減らす最善の手段という。教育はすべての人々に機会均等を保障し、貧しい人でも能力があれば豊かになれる社会的流動性を高める。実力主義という資本主義の根幹を推し進めることになり、経済成長を促すことになる。

もう一つは、資本収益や相続資産に対しての資産累進課税が有効であるという。しかし、一方でいまや一国だけでこの制度を導入しても、高額所得者が資産を海外のタックス・ヘイブン(租税回避地)などに移すので、それを防ぐ制度が必要だという。ここで、ピケティは「グローバルな累進資本課税と、世界の政府による金融情報の共有」が重要だと提唱しているが、これが実現する見通しは立っていないという。

日本ではどうかというと、米国ほどではないが所得格差は拡大傾向にある。しかし日本の特異性として、資本収益が株主に還元されずに、企業貯蓄(内部留保)になっていて、企業が貯蓄過剰となっている。資本収益からあまり投資されないのが、格差は米国ほど拡大しないが、成長もしない。さらに、近年は人口の減少も徐々に始まり経済成長率も下がり賃金低下を招き、富裕層との格差が拡大した。また、日本では失業率は低い、非正社員の割合が40%近くにまで増え、非正社員の時給は正社員の約6割なので、労働者の平均賃金を下げることになる。加えて、一時的な労働者には企業は教育をしようとしないので、彼らは非熟練者のままで、経済成長の足かせになる、という。

以上であるが、資本主義では歴史的に所得分配の格差が拡大する傾向にあり、それは今後も続くだろうということは少し理解できた気はしている。しかし、ピケティ氏は資本主義より効率の高い経済システムはないといい、ことさら資本課税を強調するのは、これ以上の不平等を防いで、保護主義や過剰介入から資本主義を守るためだということらしい。

## 2015年： 30年前に描かれた近未来

小樽市医師会  
青柳皮膚科医院

### 青柳 哲

昨年、大学を退職し開業してから、念願のホームシアターシステムで、自由な時間を大画面と迫力の音量で楽しんでいる。今は、映画館に行かなくても、最新作を劇場公開数ヵ月後には自宅でも簡単に観られるので、映画好きには非常に便利な世の中になった。最新映画の映像技術の進歩には年々驚かされるが、やはり、アイデアやストーリーの奇抜さは、まだ感性豊かで純粋だった10代のころに観たものの方が強烈な印象が残っていて、いまだに繰り返し観ても飽きない。

1980年代に公開され、その当時の代表作であるバック・トゥ・ザ・フューチャーシリーズで、主人公が未来へタイムトリップした年は、ちょうど2015年、つまり今年である。当時の30年後として描かれた近未来と比べ、実際の今では、どんなことが可能になっているのであろうか？

続編が製作されているかは別として、飛び出してくるジョーズ19の広告は、3Dメガネさえ掛ければ、今でも可能そうである。自動で靴紐が締まる靴は、なんと今年ナイキから発売されるそうである!! 衣類のサイズを自動調節したり、乾燥する機能自体はないが、ヒートテックやクールテックといった機能性衣類も、当時からすれば画期的かもしれない。

一番実現しているのは、やはりインターネットなどのコミュニケーション・情報ツールではないだろうか。スマートフォンやタブレットはもちろんのこと、腕時計や眼鏡型のツールも開発されている。ビデオ会議やマルチ画面などは、今では普通のことである。ロボット技術では、やはり掃除ロボが一番普及しているが、カフェのウェイターや犬の散歩ロボットはまだまだ先の話であろう。宙に浮くスケートボードは、規制や安全性の問題さえクリアできれば、すでに技術的には可能なのかもしれない。指紋認証によるセキュリティや、音声認識によるスイッチなどはすでに生活の中に活かされている。

医療の現場でも、電子カルテやオーダリングシステムなどで、検査結果や画像を端末やタブレットですぐに確認できるなどといったことは、30年前の当時の近未来像に近い。

偶然にも当医院が開院したのはちょうど30年前になる。当時に比べればある程度はデジタル化されているものの、私が継承した昨年以降も紙カルテや院内処方といったものはそのままにしてある。病名の判子を押して、手書きで添書を書いて、紙の検査

伝票にチェックを入れて、といった昔ながらのスタイルも、慣れれば意外と時間が掛からない。

映画の象徴である車「デロリアン」は、30年経った今の時点でも残念ながら空を飛んでいない。これがあれば、札幌-小樽間も雪など関係なく快適に行き来できそうだが、私が現役の間は無理であろう。だが少なくとも、天気の良い夏場は、朝早くバイパスを走っていると、車はデロリアンではなくても、気分的にはまるで宙に浮いている感覚に近い爽快さがドライブ中に得られる。レトロな職場と、30年前の当時からしたら近未来のツールに囲まれた自宅を行き来していると、毎日ちょっとしたタイムトリップをしているようなものである。



## 世の中 おかしくないですか？

函館市医師会  
湯の川女性クリニック

### 小葉松洋子

2015年2月5日にNHKで「浦安市が卵子凍結保存計画 自治体で初」というニュースが流れました。偶然そのニュースを見ていた私は思わず「ばっかじゃねえ！」とつぶやいておりました。浦安市が順天堂大学医学部附属浦安病院と共同で、少子化対策として、卵子の凍結保存にかかる費用や技術者の人件費の一部を補助するという話です。女性の卵子は年齢とともに質が低下し、妊娠の可能性が低くなるため、晩婚化が進む中、浦安市は少子化対策の一環として、希望する20～35歳くらいまでの住民の女性に利用してもらえればと話しているそうです。自分の若いときの卵子を凍結保存しておいて、子どもが欲しい年齢になったときに、もし不妊だったら、凍結卵子で体外受精を行い妊娠しようという計画だと思えます。

妊娠出産は一人一人を作り出す作業です。受精卵を育み、胎児を出産するまでの過程は、全身のすべての臓器を動員して、女性が命がけで行うとても大変な作業です。いくら卵子だけ若くても、身体の他の臓器が老化していれば、さまざまな妊娠合併症が起き、時には児の健全な発育が妨げられることとなります。数年前に某女性国会議員が臨床事例を公表してくれたにもかかわらず、このような計画が税金を投入して行われることに怒りさえ感じました。

産婦人科を生業にしていると、人間の生殖にも「旬」があると強く感じます。初産の最適年齢は間違いなく18～30歳ぐらいでしょう。30代前半の初産もさほどリスクは上がりませんが、産める子どもの数が少なくなります。産むこと以上に育児には気力体力を要します。産み始めが遅いと、3人4人産み育てるのは無理というお母さんがほとんどです（私も2人でダウン）。私の外来には30代後半～40代の初産で育児中のお母さんが不定愁訴で受診されることがしばしばありますが、話をよ～く聞いていって、たどり着く悩みは「育児がこんなに大変だなんて思わなかった」です。生殖は基本的に本能に左右される行為である以上、本能のなすがままに繁殖した方が、医学的には間違いなく合併症も不妊も少ないはずですが、しかし、今の日本では、10代～20代の若者が本能のままに妊娠出産子育てをする社会的環境は整っておらず、「お金がたまったらね」と言っているうちに加齢による不妊になっているだけのことで

子どもが減っているから移民を入れようというの

も、失礼な話です。移民は物ではないので、日本に移民として来た以上、将来、もういらぬから帰れ、とはいかないわけで、移民の子どもたちは、日本を故郷として育つわけですから、文化や宗教の違いを考慮した社会運営を考えざるを得ません。某作家の「移民の居住地域を分離すればいい」的発言が産経新聞に載ったそうですが、問題の本質的解決とはほど遠い意見だと思いました。

日本の人口は2008年をピークに減少に転じました。そもそも明治維新以降の急激な人口増加がずっと継続するわけではなく、私たちは日本が定常人口に落ち着くまでの過渡期である人口減少時代に突入しただけなのです。

現在の経済力を維持するために、外から移民を入れようという意見は、お金で問題を解決しようとしているだけで、本当に日本の未来を考えているとはどうしても思えません。そのいい例は、シンガポールが過去に大量の移民を入れましたが、結局移民も子どもを産まないため、移民で団塊の世代ができてしまっただけでした。そこに住む人々が安定的に再生産しなければ、社会は安定しないということです。

100年後200年後の望ましい日本の姿を見据えて、そこから逆算して、過渡期であるこれからをどう乗り切るかを考える方がずっと未来志向だと思います。

少しでも若者に子どもを産んでもらうための個人的提案は、学歴社会の見直しです。中卒でも高卒でも安定的に食べていける仕事を若者に供給できれば、早く結婚して子どもを産むカップルは増えてくるはずですが、本当に勉強を続けたい子ども以外は、早く社会に出て「非正規雇用ではなく、ちゃんと食べていける社会」に戻してあげることが少子化対策には必須だと考えます。でも人件費が国際競争力のために「コスト」として削減され続けてきたのは「経済のグローバル化」「規制緩和」の結果です。現在の日本の政治指向ではありえない提案と言われるでしょう。それと低学歴推奨は、大学がたくさんつぶれることになるので、大学関係者からも猛反発を食らうこと必須なのですが…。

## 行政・実地指導

旭川市医師会  
林医院

林 宏一

つい最近、介護療養型医療施設に係る実地指導が介護保険法第23条の規定に基づき当方の有床診療所で行われた。一般病床と介護療養型病床との混合した病棟構成のため、介護保険法にのっとり毎年施行されている。ご存知のように、介護療養病床は厚生労働省にしてみれば依然として廃止が目標のようであり、その転換先として、介護老人保健施設への移行を補助金を呈示しながら勧めている。

旭川市内には、介護療養型病床を有するのは有床診療所3カ所、病院が5カ所で、合計病床数は404床となっている。旭川市は中核市のため、旭川市保健所より総務課の職員が4名でほぼ1日をかけて職員出勤簿をはじめとして各種書類および施設平面図を持ちながら院内状況の視察を行っている。私自身は来院された時の挨拶と終了時の総括報告を受ける時のみ立ち会うが、それ以外は当方の職員3名で対応している。

介護老人福祉施設（特養）はもちろんのこと、介護保険で規定された事業所は原則、毎年行政よりの実地指導がなされていると思うが、運営に問題があると行政監査となるようである。もう介護保険制度開始より受けていると、指導慣れではないが、行政の指摘するところも分かってくる。逆に指導員はほぼ毎年顔ぶれが異なる人たちで、前年に言われたことと今年は多少違うなということもある。実地指導はある意味、経営指導の一つととらえ、各施設での内部研修時全職員にその内容を知らしめるようにしている。

ところで、旭川市の第6期介護保険料は基準額（第5段階）で年間70,015円、月額5,835円であり、収入に応じ12段階に階層分けしてあるが、最高で年額140,000円となる。介護給付費見込額の内訳を見ると、居宅サービス費が平成27年で167.14億円、平成29年169.84億円と2億7千万円の増加。一方、施設サービス費は同比78百万円増を見込んでいる。

旭川市内の訪問介護事業者は196カ所（平成26年12月1日付）あり、ここのところ年間約10件の増加が続いている。

一方、グループハウスやこれに類する高齢者下宿業（宅老所）、有料老人ホームなど、介護保険に規定されない高齢者収容施設が約197軒で、同様に増加している。これらはいわゆる外付けで訪問介護人を送り込み、介護度に応じた限度額一杯でケアプランを作成し、給付を受けていると言われている。

生活保護受給者や、住所不定者を対象としたのに「貧困ビジネス」という言葉がある。何であれそれを求めている人と、与える人との利害が一致しなければ、どのようなビジネスも成立しない。最近NHKでもこのグループハウス類の現状の一面を報道している。

すべてのグループハウスやそれに類する施設事業者を悪徳業者であると言っているのでは決してなく、これらの存在によって多くの高齢者やその家族も救われている現実もある。

国は地域包括ケアシステムの構築とその的確な運用により、住み慣れた地域で充実した余生を送れるよう、限られた財源の中で何とかやりくりしようとしている。限度額いっぱいの不審なケアプランやプラン内のヘルパーの実際の介護状況の違法性などは、行政指導を徹底すれば容易に見付けられ、その結果として介護保険料をかなり減らすことが可能と思われる。これらの施設では市行政の指導監査課の職員が担当となるが、その手腕を發揮し、介護保険法の持つ弱点を補完して、適切な介護保険制度の遂行を願っている。自施設の実地指導を受けてふと、そう思った。



## 夜汽車と過ごした日々

函館市医師会  
函館渡辺病院

### 水関 清

客車を使用した寝台列車のことを総称して、ブルートレインと呼ぶ。白や黄色の細い帯が車体の側面に配され、青く塗られた固定編成の寝台客車を、車内に電気を供給する電源車とともに機関車が牽引する。やや地味ではあるが、独特の存在感を持つ夜行列車の一群のことである。

かつては、東京・名古屋・京都・新大阪・大阪の各駅から西鹿児島・大分・長崎・熊本・博多などの九州各駅、下関・出雲・宇野・紀伊勝浦などの関西圏各駅、そして金沢・新潟の北陸各駅との間を結んで、十数本のブルートレインが運行されていた。「さくら」「はやぶさ」「みずほ」「富士」「あさかぜ」「瀬戸」など東京駅を始発とする一群には、「1」「3」「5」などの数字のみからなる列車番号が付されており、時刻表の中のひとときわ大きい文字は、目を引く存在であった。これは、ブルートレインなどの客車の番号が数字のみであるのに対して、電車は数字の末尾に「M」を、気動車は「D」の文字をそれぞれ付加するという、列車番号をつける際のルールに基づく処置であったが、これらの名物列車は、2009年3月13日をもってすべて廃止された。

さらに上野からは、盛岡・青森・金沢の各駅との間を結ぶ「北星」「ゆうづる」「あけぼの」「北陸」が、そして大阪からは新潟・青森・函館へ向かう「つるぎ」「日本海」も運転されており、東京や大阪から北へ向かう一群も確かな存在感を見せていたが、東北新幹線延伸を機に次々に廃止されていった。2015年3月1日現在、上野と札幌の間を結ぶ「北斗星」、さらに車体色が青を基調とするものではないが、固定編成の客車寝台としては同様な存在である「カシオペア」、そして大阪と札幌を結ぶ「トワイライトエクスプレス」が、わずかに残るだけとなっている。

2015年3月14日のダイヤ改正で、その「北斗星」の定期運行が、「トワイライトエクスプレス」の臨時運行とともに終了することになった。北海道新幹線の試行運行が始まると、ダイヤの調整が難しいことがその原因という。定期運行の終了後も、臨時列車としての「北斗星」は「カシオペア」とともに、8月22日までは隔日で運行されることも決まった。「北斗星」と「カシオペア」は、同じ区間を1日交替で同じダイヤで運行され、東北線・海峽線・函館線・室蘭線・千歳線の沿線では、20年余にわたって慣れ親しんできた、青い客車の特急「ブルートレイン」が走る姿を、新製寝台特急である「カシオペア」と

ともに、今しばらくの間は週1回の連休を除いて日替わりで見ることができるようになった。しかしながら、その後のことは不透明である。

はじめてブルートレインに乗ったのは、1972年11月のことであった。東京駅発19時25分の寝台特急「瀬戸」。富士山、日光、東京をめぐる高校の修学旅行の帰途、旅程の中で半日だけ確保された東京での自由行動の後、東京駅に集合して、この年のダイヤ改正でデビューしたばかりの寝台特急に乗ることになっていた。はじめて乗る寝台特急。座席ではなく、横になって憩むことのできる列車の内部とは、どんなふうになっているのか？ クラスメイトそれぞれが持ち寄った少ない情報を交換してみても、さっぱり判らない。当時は知る人ぞ知る存在であった寝台特急のことは、とにかく乗ってみて確かめようということで、衆議一決していた。

「瀬戸」は、電源車1両、A寝台2両、食堂車1両、B寝台11両からなる15両編成。5号車に組み込まれていた食堂車は、終着の宇野駅着が6時12分と早朝のため、営業されてはいなかった。肝心の寝台はというと、20系客車の3段式寝台。寝台幅はわずか52cm、寝台面から天井までの高さも平均60cm程度で、ひとたび横たわると身動きもままならない狭さゆえに、「蚕棚」と揶揄されることもある代物であった。向い合せになった開放式の寝台で、腰かけるには窮屈だし、横になる以外に落ち着ける体勢というか、居場所が見付けにくい構造であった。

発車ベルの鳴り響く中で、東京駅14番線の時計の針が、19時25分を示していた。今でも、文字盤の上で長針と短針がそれぞれ、ちょうど「八の字」の形をとっている姿を見ると、修学旅行の最終盤で、クラスメイトといっしょに見つめた43年前の東京駅14番線の時計のことを思い出す。

「狭い・窮屈・気づまり…」と、とやかく言われる20系客車の3段式寝台だが、そこは高校生の持つ若さという柔軟性のたまもので、乗車してしばらくたつと、寝台から顔を出し、カーテンを開けると、たちまちのうちに寝台の交換や陣取り合戦が立体的に繰りひろげられた。グループや団体での利用なら、狭さという寝台の弱点が、親密さということの裏打ちをしてくれる利点にもなるのだと、思い知らされたものである。

このように思い出濃い東京駅14番線であるが、15番線とともに、現在は東北新幹線ホームとなっている。なお余談になるが、山陽新幹線博多開業までは、13番線が東海道本線・横須賀線用ホーム、14・15番線が遠距離列車用ホーム、16番線が回送線（後に東海道新幹線に転用）であった。新幹線の開業までは4線とも頻繁に列車が発着しており、ある特定の時間以外に13番線から15番線を見通すことは至難の業であった。何らかのきっかけでこれに気付いた松本清張が、小説「点と線」の中で、この時間を重要な

トリックとして世に問うたのは、周知の事実である。

1988年3月、青函トンネルの開通を機に登場したのが上野～札幌を走る寝台特急「北斗星」である。当時すでに、利用に陰りの見えていた寝台特急のあり方に一石を投じ、従来とは一線を画した設備（個室寝台・シャワールームなど）と、豪華な食堂車を用意しての登場であった。登場後数年はバブル景気の追い風を受け、乗客数もいったん増加したもののそれ以降は再び減少に転じたため、さらなる豪華志向として登場したのが、基本的に全室2人部屋からなる、新製寝台特急「カシオペア」である。東京～札幌間の航空機料金よりも割高な料金設定でもそれなりの利用がある状況を見ると、目的地への移動のほかに寝台特急の中で過ごす時間そのものへの期待の反映と考えるべき現象かもしれない。同様な現象は、「北斗星」が運行を始めたほぼ1年後に大阪～札幌間を結んで走り始めた、個室主体の臨時寝台特急「トワイライトエクスプレス」にも認められる。

「北斗星」・「カシオペア」も「トワイライトエクスプレス」も、青函トンネルを抜けて、北海道に入る。客車列車のため、牽引する機関車が必要で、青函トンネル区間は、電気機関車による牽引である。そのため、「北斗星」・「カシオペア」は停車する函館駅で、「トワイライトエクスプレス」は、列車の進行方向が変わる五稜郭駅で、青函トンネル用の電気機関車からディーゼル機関車に付け替えられる。道内を走るほかの高速列車へのダイヤ影響を軽減し、札幌までの一部の急勾配区間に対応することを目的として、ディーゼル機関車は重連運転とされている。機関車の重連は真近で見ると大迫力で、撮影のために遠景で見ても、北海道の大地によく馴染み、その姿は鉄道愛好家以外からも多くの支持を集めている。

そうしたブルートレインが、いよいよ定期運行を終える。夜行列車の味わいには格別のものがあるが、近年その車内には、凋落ぶりが漂っていたように思われる。発売日の、みどりの窓口に並ばなくても確保できる個室寝台券。乗車してみれば、空いた席に虚しく置かれた毛布や、シーツの白さが目立つB寝台の車内。食堂車も、予約時間にはそれなりに賑わうが、自由に利用できるパブ・タイムの閑散としたテーブル。廃止の報を聞いてからの寝台券の発売開始後数分での売り切れや、駅頭でのカメラの放列、そして撮影名所での場所取りの混雑。利用者が少なくなったゆえに湧き上がる、消えてゆくものへの哀惜の発露ではあろうが、2014年5月11日をもって廃止された江差線・木古内～江差間の直前の混雑があわせて思い起こされ、廃止の報が流れる前後における、その対応の振幅の大きさに戸惑う。

機関車に引かれて、ホームに流れ込んでくる、ブルートレインの車体の深い青色の帯。ドアが開く。機関車がブレーキをゆるめると、わずかに車両が後ずさりする。乗り込んでドアが閉まると、ガクンと

いう車両同士の接触のあと、ゆっくりと窓外の景色が流れはじめる。停車のたびに後ずさりし、ぶつかりながら動き出すのは、客車ならではの味わいである。闇に塗り込められた車窓に映るのは、自分の横顔、そして、反転した車内風景。その窓も、徐々に人いぎれで曇りはじめる。窓からの視界が遮られると、視点は自分の胸の裡へと移動する。乗車したその時々への生活への期待と不安。その先にある人生の広がりに対する茫漠たる想い。それまでに何度も反芻してきたことが、繰り返し脳裏をよぎる。

「夢を見るのは旅枕が一番」と、昔の人は考えた。夜の底を走り抜ける列車の窓を外界へののぞき窓にしたり、己の姿を映す鏡にしたりして過ごした一夜の記憶は、かけがえのない人生航路を照らす貴重な燈火となっている。



「北斗星」のエンブレム：上部には“SAPPORO”と“TOKYO”の文字が左右に配され、中央にある“539”は、青函トンネルの全長53.85kmを示す。その下には“JR HOKKAIDO”の文字が、さらにその下には“HOKUTOSEI”の文字と北斗七星を意匠化した星の並びが見える。最下端の流れ星のマークは、寝台特急のシンボルマーク。



闇の中に浮かび上がる「トワイライトエクスプレス」のテール・マーク